



SUAA

Shimane University Alumni Association

島根大学同窓会連合会 機関誌

March.2014 Vol.8



同窓会連合会



同窓会連合会は、機関誌の発行、ホームカミングデーの開催、ホームページの運用などを通じ同窓会員の皆様と母校島根大学を繋ぐ役割を果たして来ておりますが、その中でこの機関誌「SUAA」は、同窓会連合会及び各学部同窓会の活動状況や母校島根大学の最近の状況を同窓会員の皆様にお届けするものです。

特に、同窓会連合会の平成25年度からの活動としましては、同窓会活動の拡大・強化を目標に、東京や大阪、広島などに連合会地域支部設立の働きかけ、多数の同窓会員が在籍し活躍しておられる県庁、市役所、JA、銀行などに職域支部設立の働きかけを行って参りました。このことにより同窓会員相互の親睦交流を深めるだけでなく、同窓会員のご協力をいただきながら、新しく社会に出て行こうとする現役学生の皆さんに対する情報の提供あるいは相談などの支援をすることが出来るようになればと期待しているところであります。

平成26年度は、母校島根大学が法人化されて節目となる10周年を迎えます。

母校島根大学では、10月に記念式典が計画されておりますが、これに併せ、例年通りホームカミングデーを開催する予定です。当日は、各学部同窓会におかれては、同窓会員と現役学生の皆さんとの交流会なども計画されていると聞いております。どうか多数の同窓会員の皆様のご参加をお願い致します。

島根大学同窓会連合会会長 江口 博晴

活動状況



学生活動報告会



しまだいユーモア連歌大賞の発表

発表を行いました。トーク形式による軽快な講評と、レベルの高い作品に、会場からは笑いと感嘆の声が上がっていました。また、当日会場にお越しいただいた入選者に、小林学長から表笑状(表彰状)と賞品が授与されました。

学長賞の他、各賞については、ホームページをご覧ください。

<http://www.s-renga.shimane-u.ac.jp/>

第7回ホームカミングデーを開催

松江キャンパスでは、10月12日(土)に第7回ホームカミングデーを開催しました。当日は、約80名の同窓生、一般の方々を迎え、小林祥泰学長、江口博晴同窓会連合会長の挨拶に始まり、学生活動報告会や、2013年8月末まで作品を募集した「第1回しまだいユーモア連歌大賞」の発表を行いました。

学生活動報告会では、各学部(医学部を除く)の学生から、日頃の教育・研究等の活動を各15分の持ち時間で報告があり、専門的な研究や地域で活躍する学生の活動報告に、同窓生は熱心に聞き入っていました。報告者及び題目は以下のとおりです。

◎法文学部 卒業

上田 順亮 氏 「しまねッショナル～島根を支える大人達～」

◎教育学部(教育学研究科)

森本 菜奈視 氏 「諸機関との連携によるアウトリーチ活動」

◎総合理工学部

田中 祐貴 氏 「ARによる現実世界と仮想世界の融合」

◎生物資源科学部

坊 将一 氏 「学生山王寺棚田保全隊」

今年度から始まった「第1回しまだいユーモア連歌大賞」発表では、下房桃菴本学名誉教授と小豆澤悦子本学職員が、全国から寄せられた1,255句の中から、学長賞2名と優秀賞10名の



出雲キャンパスでは、10月19日(土)に医学部大学祭(くえびこ祭)に併せ、平成25年度医学部ホームカミングデー講演会を開催し、在学生の保護者等を含む約70名の参加がありました。

大谷浩医学部長、佐藤利昭医学部同窓会長の挨拶に続き、内科学講座(内科学第四)田邊一明教授から「私たちの進路～島根で働き、世界で学ぶ～」、西尾祐二大田市立病院長より「住民とともに成長する地域病院を目指して～健全な相互理解と協調を礎に～」と題してそれぞれ講演があり、参加者は島根から世界に向かって情報発信のできる教室を目指した講座の取組み、大田市立病院の大田2次医療圏の中核病院としての役割や経営健全化に向けた取組み等に熱心に耳を傾けていました。



田邊一明教授

その後、大谷医学部長から医学部の近況報告があり、続いてSMILE(臨床交換留学や基礎交換留学を

支援する学生団体)および水泳部より活動状況の報告がありました。

講演会終了後には、若手医師の県内定着促進とキャリア形成支援の体制充実を目的に建設された「みらい棟」の施設見学会が行われました。



西尾祐二大田市立病院長



SMILE
活動報告

◆◆ 平成26年度活動予定 ◆◆

- 第8回ホームカミングデー／平成26年10月12日
- 役員会／平成27年3月
- 機関誌第9号の発行／平成27年3月
- 学部同窓会への支援
- 連合会地域支部及び職域支部の設立
- 学友会組織の設立準備
- 古代出雲文化フォーラムへの参加協力

島根大学パスポート会員制度がスタートします！

知的好奇心の旺盛なあなたへ 島根大学は新しい学びなおしのスタイルとして、 社会人のための市民パスポート会員を募集します！

島根大学では、生涯学習社会に対応して教育・研究の成果を広く社会に公開してきました。平成26年度からは、「地(知)の大学」として、さらに充実した生涯学習を提供するために『市民パスポート会員制度』を新設しました。福沢諭吉は、近代日本を支える自由独立の民“citizen”を日本で初めて“市民(いちみん)”と訳しました。島根大学は、知の時代を切り開く「市民」の皆様に向けて、生涯学習の機会を提供いたします。

『市民パスポート会員』は、島根大学の講義を無料で受講できる上に、「広報しまだい」や定期的な生涯学習情報メールを受け取ることができ、島根大学のさまざまな活動に参加できます。知的好奇心の旺盛なあなたにぜひご加入いただき、生涯現役として「知る」をお楽しみください。

年会費5,000円でどなたでも入会でき、右のサービス等を1年間ご利用いただけます。



- ① 市民パスポート会員向け講義についての情報提供と受講
- ② eラーニングなどのインターネットを用いた講義の聴講
- ③ 「広報しまだい」の送付
- ④ 附属図書館の利用
- ⑤ 学生市民交流ハウスの利用
- ⑥ 大学施設の利用
- ⑦ 各種催事(国際交流、学生との交流など)への参加



●詳細については、本学ホームページまたは以下までお問い合わせください。

島根大学総務部総務課(市民パスポート会員担当)

午前8時30分～午後5時00分まで(土日祝を除く)

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL:0852-32-6603

E-mail:webinfo@office.shimane-u.ac.jp



同窓会HP

<http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/>

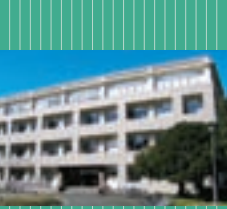


世代を越えて繋がる「島根大学公式Facebook」

島根大学では大学公式Facebookページを開設しています。学長、教職員、学生が島根大学の「今」を伝える情報コンテンツです。大学関係者であればどなたでも投稿いただけます。同窓生の皆様もぜひご活用ください。

<http://www.facebook.com/ShimaneUniv>





活動状況

平成25年11月23日、島根大学法文学部同窓会九州・沖縄支部設立総会が福岡市内の博多サンヒルズホテルで開催されました。広島・関西・東京支部に続く新たな支部が設立されるというのは近年ない慶事でした。小林祥泰島根大学長にもご出席いただき、支部設立の祝辞をいただきました。(写真参照)

第7回ホームカミングデー(平成25年10月12日(土)開催)に併せ、法文学部同窓会では、同窓生4名から体験発表、その後は班に分かれて、同窓生・現役学生・教員による意見交換会を実施しました。夕方からは会場を大学からホテルに移し、法文学部同窓会交流会を開催しました。これまでに最も多い約70名の参加者となりました。

〈平成25年の主な活動状況〉

- ◇島根大学法文学部同窓会定例役員会
平成25年4月20日(土) 於:島根大学
- ◇島根大学法文学部関西同窓会総会
平成25年6月22日(土) 於:大阪第一ホテル
- ◇同窓会年報「淞春」年報第8号発刊
平成25年夏
- ◇島根大学法文学部同窓会東京支部淞春会
平成25年9月7日(土) 於:法曹会館
- ◇第7回島根大学ホームカミングデー・法文学部同窓会交流会
平成25年10月12日(土) 於:島根大学及びレインボープラザホテル
- ◇島根大学法文学部同窓会九州・沖縄支部設立総会
平成25年11月23日(土) 於:博多サンヒルズホテル



法文学部同窓会九州・沖縄支部設立総会

◆◆平成26年度活動予定◆◆

- 法文学部同窓会役員会
平成26年4月19日(土) 於:島根大学
- 同窓会年報「淞春」第9号発刊
平成26年8月
- 第6回島根大学広島同窓会総会・懇親会
平成26年8月23日(土) 於:広島アンデルセン
- 第8回島根大学ホームカミングデー・法文学部同窓会交流会(予定)
平成26年10月12日(日)
於:島根大学及びレインボープラザホテル



同窓会HP
<http://www.gaku-sei.net/l-dousou/>

同窓生からの近況報告



2013年11月23日!!

島根大学法文学部同窓会九州・沖縄支部設立

蓼田 啓一郎

文理学部法学科第22期(1974年卒)

九州・沖縄在住の同窓生の想いが、多くの学友、大学関係者のご支援に支えられ達成されました。九州・沖縄の仲間にご支援いただいた皆様に深謝致します。多くの同窓生の絆を深め、多くの仲間が有意義で楽しい時間を共有する、そんな九州・沖縄支部にしたいと思っています。

九州・沖縄の地で、旧制松江高等学校の歴史と伝統を受け継ぐ島根大学法文学部卒業生としての矜持をもって、母校島根大学の存在を高めるべく、堂々と行動し、必ずや母校と九州・沖縄を結ぶ津梁たる支部となります。皆様の熱い友情のご支援よろしくお願い致します。

(島根大学法文学部同窓会九州・沖縄支部 事務局)



色々なご縁のお陰で

清水 隆矢

法文学部社会文化学科第29期(2010年卒)

在学中、県内の農漁村でボランティア活動をしてきたこともあり「卒業後も大好きな島根に残る」と、「地域づくりに関わる仕事をする」ことを決めました。卒業後は実際に、出雲市鷺鷥(うさぎ)地区という漁村で1年間、地域に移住して地元の方々と協力し地域づくりに取り組む仕事に就きました(鷺鷥地区には、現在も在住)。そして、平成25年4月には地域の若者で「ふるさとつなぎ」という任意団体(NPO法人化申請中)を設立しました。活動を支えてくださる出雲や鷺鷥など地域の先輩方や、島根大学時代からの仲間など、会員も約30名まで増えました。島根への移住希望者向けの体験ツアー実施など、県内各地を飛び回っています。

(ふるさとつなぎ 代表)

活動状況

◇6月8日：役員総会

総会終了後、「文字書写の歴史—中国出土文字資料を中心として—」と題して昨年度初と同窓会教育振興奨励賞を受賞された福田哲之先生の講演が行われた。

◇6月8日：同窓会広報誌「Leaf@同窓会」ご入会勧誘特別号の発刊

「母校・教育学部の絆を大切に—ご入会のお勧め—」の特集号が発刊された。

◇6月26日：教育学部FD戦略センター「面接道場」

教員採用試験模擬面接の指導に在松同窓会員が面接官として協力した。

◇8月23日：同窓会広報誌「Leaf@同窓会」第5号の発刊

「支部活動の再興を！」の特集記事で近県での支部組織の確立を目指そうとするものです。

◇10月12日：第7回ホームカミングデー

教育学部と同窓会との共催事業として『卒業生が語る「新しい教育の風」』というテーマでシンポジウムが開催され、藤原恵子氏（松江市立大野小学校長）をコーディネーターに大坂慎也氏（附属小学校）、長谷 剛氏（志桜塾主宰）、大谷淳司氏（亀嵩小学校）をパネリストとしてディスカッションが行われた。



ホームカミングデー/シンポジウム：卒業生が語る「新しい教育の風」

◇10月30日：教育振興奨励賞授与式

教育学部長室において有馬会長より加藤寿朗氏（初等教育開発講座）に授与された。

◇1月21日：「同窓会誌 第65号」発刊

今号は同窓会60周年記念号として編集したものである。

◇1月22日：卒業生・3回生専攻代表者会

平成26年度活動予定

- 6月 役員総会（於：教育学部多目的ホール）
学生・教員によるプレゼンテーション
機関誌「Leaf@同窓会」の発行
- 7月 教師力アップセミナー協力
- 10月 ホームカミングデー（予定）
学部・同窓会共同企画
（学生・教員・卒業生の交流）
- 11月 教育振興奨励賞の授与式
- 1月 「同窓会誌」No.66号の発行
卒業生・3回生専攻代表者会
理事会
- 3月



（教育学部多目的ホール）
役員総会

※各支部・卒業期・研究室（専攻）等の同窓会を開かれる折には、規定により祝い金を送っています。是非事務局までご連絡ください。



同窓会HP
<http://www.suaa2.shimane-u.ac.jp/edu/index.html>

同窓生からの近況報告



教える＝伝える

宍道 正五

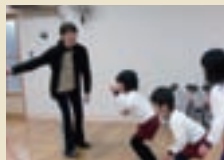
教育学部特別教科保健体育教員養成課程（1997年卒）

現在、地元テレビ局 山陰中央テレビ（フジテレビ系）の子会社㈱TSKエンタープライズで、番組・CMなど映像制作やイベント運営の仕事をしています。

今や教育学部卒業後の進路も多岐に亘ると思いますが、当時は民間企業への就職は圧倒的少数派だったように記憶しています。この業界は、華やかに思われがちですが、現場はいわゆる「3K」の極み。カメラアシスタントからのスタート。撮影現場は炎天下もあれば、台風直撃暴風雨の直下も。勤務時間は昼夜を問いません。この過酷な状況を乗り切ることができたのは、大学4年間に鍛えた強靱な肉体（体力）のおかげだったと思います。その後、カメラマンを経て番組ディレクターに。最も好きなのはドキュメンタリーの制作。取材対象者に長期密着するプロセス・コミュニケーションは、先生と生徒の関係に似ている気がします。視聴者へのメッセージ性も強く、先生が子ども達へ何かを教える行為に似ています。また、授業のベースに教案がある様に、番組にはシナリオがあります。これを構成する作業も極めて似ています。

目指した「教育」とは異なる分野に進みましたが、「何かを伝える」という使命感は、学生時代に得たと確信しています。

※筆者は中央のカメラを持った男性（㈱TSKエンタープライズ）



保育観が広がった長期研修

西村 典恵

学校教育教員養成課程幼児教育専攻（2003年卒）

私は、平成15年3月に卒業し、現在、松江市立城北幼稚園に勤務しています。

働き始めて数年は、大学で学んだ知識と保育の中で起きることをつなぎ合わせることよりも、目の前のことに向き合うことで精一杯だったように思います。その中で毎年、多くの子ども達と出会い、もう一度学び直したいと思うようになりました。

その様な時に、1年間、特別支援教育長期研修生として、職場を離れて島根大学での研修機会をいただきました。この機会に、特別支援教育について学ぶだけでなく、幼児教育を学び直すこととなり、それまでの自分の保育を振り返ることができました。

大学卒業後、保育現場を経験し、再度学ぶ機会をいただけたことで、私の保育観は大きく変化し、とても感謝をしています。これからも知識としての学びと、子ども達をはじめ、いろいろな人とのかわりの中での学びの両方を続けていける保育者でありたいと思います。

（松江市立城北幼稚園）

活動状況

本同窓会は本部・中四国・東日本・関西・九州の5支部体制を採っており、輪番で支部総会を開催しています。平成25年は関西支部(森山賢治支部長(11期))が担当し、7月20日、大阪梅田のホテル阪急インターナショナルで行われました。1期小山敦子氏(近畿大学医学部心療内科)、1期村田昭博氏(千里金蘭大学生生活科学部食物栄養学科)、11期宇田川潤氏(滋賀医科大学解剖学講座生体機能形態学部門)の教授就任祝賀会を兼ねて行われました。2次会は、同ホテルのバー・ケレスに場所を移して行われました。大学から大谷浩医学部長にもご列席いただき、50名を超える同窓生が集い、夜遅くまで旧交を温めることが出来ました。

平成25年の医学研究・医学教育奨励賞は以下の3名の方々に決定し、それぞれ20万円の助成を行いました。地域医療貢献賞は、長見クリニック院長の長見晴彦(2期)氏に決定し、表彰状と副賞を贈りました。



関西支部総会

平成25年 医学研究・医学教育 奨励賞

- ◎島根大学医学部内科学講座 (内科学第四)教授 田邊一明(4期)
「透析患者冠動脈および大動脈弁・僧帽弁石灰化促進因子についての検討」
- ◎島根大学医学部内科学講座 (内科学第一)助教 山本昌弘(15期)
「糖尿病網膜症におけるWnt/ β カテニン系シグナル伝達経路を介する病態生理の臨床的解明」
- ◎島根大学医学部整形外科講座 助教 今出真司(22期)
「マイクロ画像による骨癒合強度測定」

平成26年度活動予定

- 平成26年 7月 九州支部総会(7月19日)
10月 ホームカミングデー
11月 医学研究・医学教育奨励賞／地域医療貢献賞公募
- 平成27年3月 同窓会報発行
年次総会
医学研究・医学教育奨励賞／地域医療貢献賞授与式



同窓会HP
<http://www.shimane-u-med-postgraduate.jp/>

同窓生からの近況報告



「心身医学」を広めたい!

小山 敦子(旧姓:西川)
島根医科大学医学部医学科1期(1982年卒)

昭和57年島根医科大学卒の1期生です。卒後はすぐに慶応義塾大学内科で研修医となり、5年目からは近畿大学に入局し、血液内科医を長くやっておりました。造血器腫瘍の治療過程の中で、患者さんのQOL(quality of life)の向上やメンタルケアの重要性に目覚め、サイコオンコロジーを専門とするようになりました。また、同じ頃にある心身症患者さんとの出会いがあり、実は学生時代から興味があった心療内科へ移籍しました。人生、どこでどういった出会いがあるやもしれず、そして一見、遠回りのように思えてもその根底ではすべてのことがつながっているのだ、ということが実感できるような年齢となりました。平成24年に教授職を拝命し、医学の基礎である全人的医療を実践する心身医学を広めるために、日々、診療・研究・教育に取り組んでいます。

(近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門心療内科分野 教授)



近況報告

内尾 祐司

島根医科大学医学部医学科5期(1986年卒)

2002年に母校・島根医科大学(現島根大学医学部)整形外科教室第3代教授に就任し、今年で12年になります。大学の統合・法人化や新医師臨床研修制度による地域医療の崩壊などの大きなうねりの中で翻弄されながらも、教室のアイデンティティ形成に一心に取り組んできた12年間でした。幸いにも優れた教員や多くの支援者に恵まれ、高次医療機能を提供できる体制を整え、関連病院も増えて、地域基幹病院の院長・副院長を輩出することができました。無論、教育・研究にも日々精進し続けております。これからもさらなる高みを目指して本学および本教室の発展のために尽力する所存です。今後とも皆様のご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

◎教室ホームページ: <http://www.med.shimane-u.ac.jp/orthop/>
(島根大学医学部整形外科 教授)

活動状況

看護学科は今春12期生が卒業することとなり、平成27年2月には同窓会設立10周年を迎えます。現在、卒業生は島根を中心に全国に広がり活動をしています。

昨年4月には附属病院の新病棟造設、改築が終わり今年度は新たな島根大学医学部附属病院がスタートしました。現在附属病院では、同窓生が看護職員の1割を超え、そのうち3名が副看護師長、1名ががん専門看護師として勤務しており、母校である看護学科においても3名が助教として後輩の教育に携わっております。また、県外においても専門看護師、認定看護師の資格を取得した同窓生は増え続けています。

依然として医療者不足が続いておりますが、まずは看護学科、附属病院、島根県における看護職員の不足について協力していきたいと考えております。それに向け、同窓会の体制、活動も本格的に始動できるよう計画しております。



◆◆平成26年度活動予定◆◆

- 平成26年5月 島根支部総会
「(仮)島根の看護のこれからについて考える会」
- 平成27年2月 さくら会設立10周年パーティー
- 10周年に向け名簿の改訂
- 同窓生を対象とした看護を語る会(不定期)



同窓会HP
<http://www.shimane-u-med-postgraduate.jp/>

同窓生からの近況報告



近況報告

吉野 拓未

看護学科第3期(2005年卒)

皆様、寒い日が続いておりますがいかがお過ごしでしょうか？ 島根大学医学部看護学科3期卒業生の吉野と申します。平成17年に卒業し、福岡での臨床経験、熊本での修士課程を経て、今年の4月に縁あって出雲の地へと戻ってきました。

出雲での学生生活を懐かしんだり、新たに変わったところを楽しんだりといくつものことはなく、看護学科の新米教員として、他の先生方や学生とともに看護とは何かを追求している日々です。忙しい中にも楽しさや喜びを見つけて、頑張っているところです。4月からは2年目となり、責任や役割も大きくなっていきますが、自分の後輩を教育することを楽しみながら頑張っていきたいと思っています。皆様もご自愛くださいませ！

(島根大学医学部看護学科臨床看護学講座助教)



近況報告

坂本 唯

看護学科第11期(2013年卒)

昨年島根大学医学部看護学科を卒業し、4月に同大学附属病院に就職してから、あっという間に9ヶ月が経過しました。私が勤務している腫瘍センター病棟は、固形がんの患者さんや血液疾患の患者さんに対し、主に化学療法や移植などの治療を行う特殊ユニットです。日々の業務は、重症・急変患者さんの対応や、抗がん剤治療など、患者さんにとって侵襲の大きい治療を行うものであり、人の命に直結する仕事であるため緊張が絶えません。しかし、尊敬できる上司・先輩方、同じ悩みや不安を持つ同期に支えられ、9ヶ月間看護師として勤務することができました。また、患者さんから「いつもありがとう。」と笑顔で言われた時には、やはりこの仕事を選び良かったと感じることが出来ます。まだまだ看護師として未熟な私ですが、母校でもあるここ島根大学附属病院でこれからも頑張っていきたいと思っています。

(島根大学医学部附属病院腫瘍センター病棟看護師)

活動状況

総合理工学部同窓会では、総会を4年ぶりに島根大学ホームカミングデーに合わせて開催しました。当日は、東京支部の山本副会長、9月に設立された山陰支部の伊藤支部長をはじめ、多くの会員が参加されました。その後開かれた懇親会には小林島根大学長、服部総合理工学部長をお招きし、会員それぞれの近況を語り合い、親睦を深め楽しいひとときを過ごしました。また今回4年ぶりに同窓会名簿を発行しました。名簿は今回から従前のB5サイズから一回り大きなA4サイズになりました。現在本同窓会員数は一万人を超え、同窓生の皆様は様々な分野で活躍されています。同窓会名簿が縁となり、同窓生の皆様方の絆がさらに深まることを願っています。

なお、今総会で4年にわたり同窓会の発展にご尽力頂きました春日邦宣会長が勇退され、新たに岡本信之会長(文理17期数学卒)と奥村稔副会長(文理19期化学卒)がそれぞれ選出されました。



◆◆ 平成26年度活動予定 ◆◆

- 平成26年5月
平成25年度卒業生の動向調査完了
(同窓会名簿の基礎資料)
- 平成26年10月
総合理工学部同窓会理事会の開催
総合理工学部同窓会茶話会の開催*
(島根大学ホームカミングデーと同時開催)
- 平成26年12月～27年3月
総合理工学部入学予定者への同窓会入会案内送付
- 平成27年1月
平成26年度卒業生の動向調査開始
- 平成27年2月～3月
総合理工学部同窓会理事会の開催

※島根大学ホームカミングデー(大学祭期間中)に合わせて、同窓生相互の親睦を深めるために総合理工学部同窓会茶話会を開催します。詳細が決まり次第、総合理工学部ホームページに掲載しますので、是非ご参加下さい。



同窓会HP
<http://www.suaa2.shimane-u.ac.jp/riko/>

同窓生からの近況報告



時代は変わり行く。ファイト島大生!

森山 信雄

生物資源科学部生物科学科(1986年3月卒)

私は生物資源科学部生物科学科を卒業後、製薬会社勤務を経て、現在は出雲市内のアルファー食品株式会社、アイレック株式会社、他国内外4社の経営をしています。また、多くの島大生が当社で活躍されています。現在、食糧危機、人口爆発、民族紛争、貧富の差の拡大など、この世界は暗いカオスに加速しながら陥っています。そのような時代だからこそ、マスメディアやインターネットなどの受け身の情報に流されることなく、暖かい心と己を律する精神をもって真摯に自分を磨き、よく遊び、よく学んで頂き、1日1日を大切に生かされていることに感謝して過ごして頂きたいと思います。

(アルファー食品株式会社)



つながり

大網 孝次

理学部数学科11期(1992年3月卒)

現在、島根県立宍道高等学校に勤務しています。この学校は定時制・通信制高等学校の再編成に伴い、松江工業高等学校校定時制課程普通科、松江南高等学校宍道分校、出雲高等学校定時制課程、松江北高等学校通信制課程を統合して、平成22年4月に開校しました。

これまで宍道高校を含めて5つの学校に勤務してきました。その間、島根大学のたくさんの先輩や後輩と一緒に仕事をしてきましたが、何となく親近感を覚えます。最近では、島根大学の先生を基点にしてネットワークが広がってきているようです。どのような職に就いていても、このようなつながりを大事にしていきたいものです。皆さんの今後のご活躍を祈ります。

(島根県立宍道高等学校)

活動状況

今年度、生物資源科学部同窓会では、同窓会活動の充実を目的として、評議員の改選を行い新たな体制でスタートしました。10月に開催されたホームカミングデーでは、生物資源科学部と生物資源科学部同窓会が協力して、「卒業生による講演会」と「社会で活躍する卒業生との就職懇談会」を開催いたしました。卒業生による講演会では、元島根県立農業大学校校長の鎌田長一郎氏(島根農科大学昭和38年卒業)に「日本百名山漫遊記」という題名で興味深い講演をしていただきました。社会で活躍する卒業生との就職懇談会では、関東、近畿、山陰で活躍されている4名の卒業生に現在の仕事、会社説明、就職アドバイス等をしていただきました。来年度も卒業生と在校生の結び付きを大事にさまざまな活動を企画する予定です。



卒業生による講演会



就職懇談会

◆◆ 平成26年度活動予定 ◆◆

1. 生物資源科学部同窓会総会の開催
(10月予定)
2. ホームカミングデーでの協賛事業の開催
平成26年10月に開催予定
3. 生物資源科学部同窓会評議員会の開催
6月及び10月に開催予定



同窓会HP
<http://www.life-suaa.shimane-u.ac.jp/>

同窓生からの近況報告



島根県 1 JA 誕生に邁進中

高木 賢一

島根大学農学部農林経済学科(1980年卒)

私は農家に生まれ、大学在学中に食料と農業と農村の維持発展が安心とゆとりの原点であると確信し、JA島根中央会に就職しました。30有余年の間に農村の環境も人々の生活空間も大きく変わったと体感しています。昨年は出雲大社の60年に一度の御修造＝『平成の大遷宮』で、全国各地から空前の観光客が島根に来てくれました。島根の観光を発信するうえで、海や山、村の景観が明媚で、自然の食を堪能していただけるような「おもてなし」は必要だと思います。それを担うのは村(地域)であり、それを維持する人です。人は生活できる保障がなければ定住してくれないでしょう。

私たちJAグループ島根は、県内津々浦々で老若男女が定住できるような農業・農村に再興し、子々孫々までつなげる地域社会づくりをめざして、平成27年3月に現在の11あるJAが合併して1JAを誕生させることに邁進しています。将来への確かなパトントッチができるよう微力を尽くしてまいります。



研究活動について

佐藤 邦明

生物資源科学部1期(2000年卒)

平成12年に生物資源科学部を平成14年に生物資源科学研究科を卒業しました。平成22年4月より生物資源科学部の教員に採用され、長いもので島根に来てから18年目になります。土壌をテーマに研究を行っており、中でも土壌の環境浄化機能を利用した水質浄化技術の開発を行っています。日本ではあまり馴染みのない技術ですが、海外では欧米のみならず開発途上国でも広く使われている処理方式です。生活排水や汚濁河川水などを対象に、土壌内での水の動きや、ろ過作用、吸着、分解処理を担う微生物の調査を学生たちと行っています。最近では、土壌改良材や水質浄化資材になるような、地域に眠る未利用資源の発掘もできないかと計画を立てています。

附属図書館本館がリニューアルオープンしました

4月4日、島根大学附属図書館本館は、平成24年6月から開始した耐震・機能改修工事を終え、リニューアルオープンしました。オープン当日は、記念式典が催され、小林学長、竹内、辻両担当理事、田籠附属図書館長、富室学生代表及び祝辞をいただいた大矢島根県立図書館長によるテープカットの後、開館となりました。

式典終了後は井上施設整備課長より、耐震性能の向上、安全・安心、環境配慮など、今回の改修工事のポイントの説明があり、その後、附属図書館職員より、エントランスから建物の奥へと、機能面から「交流」「学習」「研究」とゾーニングしたスペース配置について説明がありました。

続いて歴代館長等の来賓者、大学職員及び報道関係者など参列者約70名は、職員の案内による施設見学会に参加し、可動式テーブルやホワイトボード、電子黒板(ビッグパッド)、プロジェクタ等を整備したラーニングコモンズや、展示スペース、研究ゾーン閲覧室へ新たに設置した電動集密書架、利用する人数・用途に対応したグループ学習室、研究個室などを見学しました。

式典終了後は、開館を待ちわびていた多くの学生が入館し、明るく利用しやすくなった図書館へ賛辞の声をいただきました。



医学部附属病院 再開発完成記念式典を行いました

6月1日、本学医学部附属病院において病院再開発完成記念式典を行いました。この式典は、平成20年度の新病棟着工に始まり、今年3月の既存病棟および外来・中央診療棟改修完了に至るまでの5年にわたる病院再開発事業を終えたことを記念したものです。

式典には、島根県選出の国会議員をはじめ文部科学省、島根県、出雲市、大田市、関連病院、自治協会、企業各関係者など約120名が出席されました。

初めに本学井川病院長から、続いて小林学長からそれぞれ挨拶があり、島根県の拠点病院として地域医療の向上に活かしたいなど、本院の果たす役割について今後の抱負を述べました。

引き続き、文部科学省大臣官房文教施設企画部 長坂技術参事官、竹下衆議院議員、青木参議院議員、小林島根県副知事(溝口島根県知事の祝辞を代読)からそれぞれ祝辞があり、病院再開発完了によりさらなる本院への期待の言葉をいただきました。

その後、小林学長、井川病院長、大谷医学部長および来賓代表者によるテープカットが行われ、本院の新たな門出を祝いました。

また、井川病院長より病院の施設概要について説明が行われたのちに、クリニカルスキルアップセンター、小児センター病棟、緩和ケア病棟、手術ロボット ダ・ヴィンチ、ICU・救命救急センター病棟、救命救急センターをめぐる病院見学会を行いました。

最後に本院食堂ラパンにおいて祝賀会を開催し、盛大な式典を締めくくりました。



「津和野を応援し隊」が募金活動を行いました

豪雨で深刻な被害を受けた津和野町へ島根大学から元気を届けることを目的に、学生グループが「津和野を応援し隊」(代表 生物資源科学部3年坊 将一さん)を結成しました。

8月2日、6日には、松江キャンパスで募金活動を行い、小林学長を始め、多くの学生や教職員に協力を呼びかけ2日間で57,673円が集まりました。また、募金に併せ、「津和野にとどけ、みんなの元気」と書かれた横断幕にメッセージを募集。多くの津和野町への温かい言葉が寄せられました。

集めた義援金と応援メッセージは、津和野町日原出身の生物資源科学部1年の山根駿介さんが8月7日津和野町役場を訪れ、副町長へ手渡ししました。



COC事業キックオフセミナーを開催しました

12月16日、松江市のくにびきメッセにおいて、文部科学省平成25年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択された「課題解決型教育(PBL)による地域協創型人材養成」のキックオフセミナーを開催しました。本事業は、大学が地元の自治体等と連携し、地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めることで、全学的に地域の再生・活性化に取り組むとともに、それらを通して地域に貢献する人材の養成を推進するもので、本年度から5年間の事業期間をかけて展開していくものです。

セミナーでは、小林学長の挨拶、島根県知事の挨拶、竹内理事からのCOC事業概要説明に続き、株式会社インテカー 代表取締役社長 齋藤ウィリアム浩幸氏による「地域イノベーションに対応した人材の育成について」と題した記念講演がありました。

続いて、本事業において地域との協働により実施する課題解決型研究・教育の中心となる「Ruby・OSS」「ウッド・デザイン」「くにびきジオパーク」「疾病予知予防」「ナノテク」「自然災害軽減」「農林水産業の六次産業化」「水産資源管理」の8つのプロジェクトセンターから活動紹介があり、最後に塩飽理事の挨拶で閉会しました。

当日は、本学教職員、学生、自治体関係者、企業関係者、一般市民の方々等、約190名の参加があり、活発な意見交換が行われました。



広島で古代出雲文化フォーラムⅡを開催します

3月9日、広島国際会議場において「古代出雲文化フォーラムⅡ ～古代出雲文化と現代の製鉄へつながる"たたら"へのいざない～」を開催します。

このフォーラムは、本学の幅広い学術研究成果等を発信し、本学の知名度・存在感の向上を図るとともに、島根地域への誘客に繋げるため、昨年東京で開催した「古代出雲文化フォーラム～神話・青銅器・たたら～」に続き開催するものです。

第1部では、藤岡 大拙氏(元島根県立島根女子短期大学学長)による基調講演「出雲神話の謎」、木原 明氏(国選定保存技術保持者 日刀保たたら村下)他、「たたら」に縁のある専門家によるパネルディスカッションや、三上 貞直氏(刀匠)に「世界に誇る日本刀の技と魅力」についてお話をいただきます。

第2部では、島根県出身の映画監督、錦織 良成氏と小林学長による「古代出雲とたたらをめぐる対談」を行います。

また、フォーラムに先駆けて、広島市まちづくり市民交流プラザにて、島根大学ミュージアム特別講座in広島「出雲文化へのいざない～弥生青銅器・たたら・出雲国風土記～」を計6回開催しました。定員60名を超える多くの方々にご来場いただき、出雲文化に興味関心をもつ方々が熱心に聴講されました。



島根大学ミュージアム特別講座in広島



東京でのフォーラムの様子(2013年3月3日)

ご逝去された名誉教授(平成25年度)

◎法文学部

杉本 邦太郎 様(平成11年3月31日退職)

◎教育学部

野津 良夫 様(昭和58年4月1日退職)

森山 俊雄 様(昭和60年3月31日退職)

◎島根医科大学医学部

恒松 徳五郎 様(平成5年3月31日退職)

謹んでご冥福をお祈りいたします。

(本学から報道機関へ公表した方のみ掲載、平成26年2月14日現在)



島根大学同窓会連合会

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学総務部総務課 TEL.0852-32-6015
E-mail:suaa@office.shimane-u.ac.jp